STUDIO
ムロマン
PRODUCTS
ドスケベボディに育った
幼馴染と再会ヤリまくり離島夏休み
成人向けCG集　基本CG12枚 本編枚数256枚

美島恋音（みしまれんね）
163ｃｍ
93/57/92（Hカップ）
島で一緒に育った幼馴染。
駿輔（シュン）はレンと呼んでいる。
女らしく成長して大人っぽくなったものの、
内面は小さな頃からあまり変わっていない。
駿輔と初めてセックスしてから、
セックスがすっかり大好きになってしまう。
外で遊ぶことに慣れているせいか、
屋外でセックスすることに抵抗はない。
徐々に性欲がエスカレートしていき、
駿輔が朝起きた時、全裸の彼女がいることも…♡

もう十年以上帰っていない故郷に、
久し振りに帰ってきた。

そして幼馴染と再会する。

そんなことはよくある話だ。

だが――

ぷるん♡

むぎゅ
…そうだな
昔はもっとゆったりとしてたのに
お互い大きくなったから
お風呂キツキツだねー

再会してすぐ混浴するなんてことはありえない話だろう。
ちゅぷっ
誘ってる…わけじゃないよな？
すっかり身体は成長したけど中身はまったく変わらないと思った…
だけど一緒に風呂に入るか普通!?

再会した時は成長していて驚いたが、
今は全然変わっていなかったことに驚いている。
数時間前、小さい頃のように、
一緒に入浴するとは思ってもいなかった。

数時間前

ふぅ…

ようやく着いた…

久し振りだな…

ここは孕美島（はらみじま）。

本州から船で半日以上かけてようやく
来られる島で、誇れるものといえば
新鮮な海の幸と、知名度は低いが
一部で人気な島の野菜。

これといった観光名所はなく、
人が滅多に訪れることはない。

この島は俺の故郷なのだが、
十年以上前、まだ自分が小さい頃に
両親が海難事故で亡くなって本州の
叔父に引き取られて島から離れた。

それから一度もこの島には
帰ってきていなかった。

叔父さんは俺の世話しながら
働いて忙しかったし…

我儘を言うわけには
いかなかったからな…

でも、こうして帰ってこれた

成長して一人で帰省しても問題ないと
叔父さんから許可をもらい、
夏休みを利用して戻ってきた。

この島に俺はどうしても
一つだけ心残りがあった。

それはこの島で唯一の同い年で、
幼馴染で親友の女の子のことだ。

当時は両親が死んだショックで
顔を合わせることなく
島を出たからな…

同世代の人間は
俺たちしかいなかったし…

一人になったあいつは
大丈夫かなって…
ずっとモヤモヤしてた

何も言わずに島を出たことが
罪悪感となり、
ずっと心に引っかかっていて、
彼女に謝りたいと思った。

あいつの家は向こうだったよな？

…よしっ！

自分のことを怒っているだろうか、
そもそも憶えているだろうか、
いろんな考えが不安となって押し寄せる。

だけど彼女に俺は会わないと―

ああーーーー！

へ？

声がした方向に視線を向けると
そこには制服姿の美少女がいた。
一瞬わからなかったが
自分の記憶にある
少女の姿と重なる。
ドクン
もしかして…レンか？

やっぱり！シュンだよね！
うわー！久し振りー！
やはり彼女は俺の心残りだった幼馴染の美島恋音だった。
お互いシュン（俺の名前が海原駿輔なので）、レンと愛称で呼び合う。それだけで昔に戻ったような気分になる。

一瞬誰だかわからなかったぞ
えー
わたしはすぐにシュンってわかったよ！
また会うことができてすっごく嬉しいっ
…でも

怒ってもいるんだよ？
何も言わず島から出て行っちゃって…
おかげでわたしはいきなりひとりぼっちになっちゃった
おじさんとおばさんが亡くなっちゃって…
仕方のないことだとはわかってるけどさ

彼女の言葉が胸に突き刺さる。
やはり当時別れも告げずに
島を離れたことをレンは怒っていた。
俺は謝ろうと頭を下げー
ニヤリ
なーんてねっ♪

あはは

シュンがいなくなった後ね
島に移住する人が増えたの

当時のわたしよりも
もーっと小さい子が増えて
お姉さんになったんだ

だからひとりぼっちに
ならなくてすんだよ

今日も夏休みだけど学校は
開放されてるから

宿題を見てあげたり
一緒に遊んだりしてたんだー

そ、そうなのか…

レンがひとりぼっちにならなかったのはよかった…
だけど…なんて言うか…寂しいというか…
レンの中で自分の存在が、大したものではないように感じてしまい、少し残念に思えてしまう。
俺がいなくても大丈夫だったのならよかったよ

むっ
大丈夫なんかじゃないよ
シュンがいなくなって寂しかったんだからっ
島から出て行ったのを知ってこっそり船に潜り込んだこともあったんだよ
すぐに見つかっちゃったけど
そ、そんなことしたのか
島から出ても俺がどこにいるかもわからないのに…

それだけシュンと離れるのが嫌だったってこと！
だからこうして再会できてすっごく嬉しいよ！
ほらほらっ積もる話もあることだしうちにおいでよ！
ぐいっ
え、いやちょっと待ってくれ
それなら一度家に荷物を置きに…

シュンの家？
えっ、もしかして
あの家で寝泊まりするの？
無理だよ
シュンの家って
お化け屋敷で有名だよ
は？

とにかく一度自分の実家に行くことにした。するとお化け屋敷と言っても納得してしまうほど家は荒れていた。

人が住まなくなったうえ、数年前にあった台風で家の一部が壊れ、一気に自然に浸食されたらしい。

ここでしばらく寝泊まりするつもりだった俺は、どうしたものかと考えていると―

うちに泊まればいいよ！

この島に宿泊施設はあるものの
懐にそこまで余裕がなかったので
レンの誘いに乗って彼女の家に行く。
レンの両親も俺のことを憶えていて、
こうして島に帰ってきたことを、我が子の
ことのように喜んでくれ、島にいる間は
泊まって構わないと言ってくれた。

せっかく帰ってきたんだ
ちょっと知り合いの漁師のところに行って良い魚をもらってくるよ
そうねっ私も腕によりをかけて御馳走を作るわ！
食材を買い足してくるから駿輔くんはお風呂に先に入っちゃって

外を見ると日が傾き始めていた。

ここまでの移動の疲れもあって
俺はお言葉に甘えることに。

昔はお互いの家を行き来して、
何度も泊まったことがあるので
ある程度間取りを憶えている。

レンから「後でタオルを持って行くね」と
言葉を聞いて浴室へと向かう。

ふう…いい湯だ…

実家の風呂ではないものの、不思議と落ち着く。

ちゃぷっ

昔はよくレンと入ってたな…

それにしてもレンがあんな美少女になってたなんて…

まだあの頃のお互いの身体は似たようなもので、違いといえばチ●ポが生えているか、いないか、それぐらいだろう。

それが今はあんなに女性らしく…ん？

脱衣場の方から人の気配を感じた。

レンがタオルを持ってきてくれたのだと思い、そこまで気にしなかったが―

シュン―！

ガチャ"

一緒に入ろー♪
ビクッ
!?

お、おまっ！

そんなのダメに決まってんだろ！

えー、どうして？
昔は一緒に入ってたでしょ？

い、いや…
それはお互い小さかったから…

あわあわ

レンの裸体から目を逸らすが、男のサガか、ついつい視線が彼女の方へと向いてしまう。
服の上からも感じていたが、レンの身体は大人の女性のものへと変貌していた。
たぷん♡
おっぱいでけぇ…それに柔らかそう…
って、見たらダメだろ！

まあ、うちのお風呂なんだし別にシュンの許可なんて必要ないよね？
失礼しまーす！
お、おいっ!?

—こうして俺は
幼馴染と混浴することになった。

ドキドキ
むぎゅ
背中とかお尻がくっついて…っ！
このままだと…
というか既にヤバい
気付かれないうちに
風呂から上がらないと―
あれ？

シュンのおち●ち●大きくなってない？

あっ、いや…これはその…

勃起しているのがバレてどうしたらいいかわからず焦る。

ギンギン

突然いなくなったにも関わらず、
レンは昔のように接してくれて嬉しかった。

これからも仲良くできるかもしれない…
そんな中で彼女の身体で勃起したことは
隠したかった。

レンは身体は成長しても
中身は昔のままなのに…

俺はすっかり変わったな…

悲しい気持ちになるが
チ●ポは憎たらしいことに勃起したまま。

ジ〜〜〜

きっとレンは幻滅しているだろうと
思ったが、彼女は興味深そうに
俺の勃起したチ●ポを見ていた。

これって勃起だよね？

え…あ、ああ…

ちらちら

それってわたしの身体に
ショックが興奮してるってこと…？
…そうだな
他にどう答えればいいかわからず
俺は素直に肯定した。
もう、なるようになれだ…

それじゃあ、え…
おっぱい…触ってみたい？
ぷるっ♡
…はあ!?
男の子っておっぱい好きでしょ？
シェンも昔は
おっぱい、おっぱいって
連呼してたし
それは小さい頃の話で…
その……いいのか？
俺の問いかけにハルがい～っと頷～くと早速
彼女の胸に手を伸ばした。

むにゅう
初めて揉む女性の胸は柔らかく、最初は恐る恐る揉んでいたが徐々にその感触を確かめるように力を込めていく。
はぁはぁ
柔らかい…
シュ、シュン…！
わ、悪いっ痛かったか？
もみもみ

う、ううん…大丈夫…むしろ…気持ちいい、かも
もじ
もじ
人におっぱい揉まれるのってこんなに気持ちいいんだね…
でも、なんか…おま●こがウズウズする…
ムラ
ムラ
っ！
レンの口から「おま●こ」と発せられて、思わずチ●ポがビクリと反応してしまう。
ビクッ

…ねえ、シュン
わたしのおま●こに
おち●ち●挿れてみない？
なんだか無性に
大きくなったソレ…おま●こに
挿れてみたくなっちゃった
い、いやっ
それは…さすがに…
こんなことしててあれだけど…
そういうことは恋人とかと…
くちゅ くちゅ

えっ、もしかして恋人いるの？
……いや、いないけど
なーんだっじゃあいいでしょ？
わたしもいないしそれに―
ビクッ

シコシコだから…
いっぱいいっぱいだよ。
ドクン
その言葉を聞いて
俺は我慢できなかった。

ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ

えっ、
シコウのおち●ち●
おま●りに入っちゃった…
ぎゅっ
小さい穴なのに
入っちゃうもんだね…
…初めてなのか？
初めてに決まってるでしょ？
する相手なんて…
自にしないもの
ぐちゅ
それに…初めては
シコウとしたいと思ってたし…
ずぷっ

それって…
どきどき
…うん、シュンのこと好き
シュンがいなくなってから…
島で暮らし始めた子たちと
遊んでて気付いたの…
シュンのことがずっと頭から
離れなくて…
シュンのこと…
好きだったんだなって
気付けた…

シュン…好き…♡
ドクン
ドクン
レンからの突然の告白は
甘く、とろけるような声色で、
俺を昂ぶらせるのに充分だった。
その告白に応えるよりも先に腰が動きだす。
ぐぃ…

レンの告白で気付かされた。

どうして十年以上経っても
レンのことが心に引っかかっていたのか。

それはただ親友というだけでなく、
彼女のことを恋しく思っていたのだと。

俺も…レンが、好きだ…！

ほ、本当っ？
嬉しいっ…
嬉しいよ…シュンっ
んあっ…ああぁ♡
もみもみ
俺の言葉に安堵したのか、
レンの身体から力が抜けて、
快感をより享受していく。
ぐちゅ
じゅぷ
ぬぷ
じゅぷっ

おっぱい●っぱい●動～とっ
ま、気持ちいいっ
ぷにぷにぷに

初めてのセックスに悶えるレン。

俺もまた初めてのセックスに
今まで経験したことない快感を得て
気を抜けばすぐに射精をして
しまいそうだった。

あうっ

んっ♡

ぷるんっ

むにゅ

チ●ポが、めちゃくちゃ
締め付けられる…！

でも、気持ちいいっ！

ぬぷぷ

ぐぷぐぷ

ぐぷぷ

ぐぷぷ

処女マ●コによる締め付けの刺激が強烈で、少しでも長くセックスを続けたかったが限界が迫っていた。
はっ♡
あんっ♡
ズクズク
レン…悪いっ
もうイキそうだ…！
わ、わたしもっダメ…イ、イクッ！
ぬちゅッ
ぬぷ
ぬぷ
ぬぷ
ぬぷ

あっ♡
あうっ
んんっ♡
むにゅう
ぬぷぷ
ぬぷぷ
ぱぱ♡
ぱぱ♡
もみもみ
ぱぱ
しゅぽ!
ぱぱ
ぐぷぷ
じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ

ぞくぞくっ
ぞくぞくっ
ぁぁぁぁ♡
ドピュッ
ドピュッ

シュワッのが…おま●こに…
注がれてるの感じる
ビュー
ビクビク
なんだかこの感じ
すごく幸せ…
ビュー
あ
溢れちゃった精液…
お湯に浮かんじゃってるね
…風呂から出る時に
片付けないとな

射精したおかげか幾分か冷静になって、
レンの両親が帰ってくる前に風呂から
上がらなければと慌てる。

だが、レンは「大丈夫だよー」と微笑んで
セックスの余韻に頬を緩めて、
俺に身体を預けて動こうとしない。

そんな彼女をなんとか急かして、
風呂から上がるのだった。

この続きは、本編でお楽しみください！！